口絵 1 : 濃尾活断層系から発生した古地震の考察 — 梅原断層のトレンチ調査 —
Estimation of Paleo-Seismicity on the Nobi Active Fault System,
Central Japan — Excavation Study of the Umehara Fault —

写真 1 根尾谷断層南東部および梅原断層北西部の断層変位地形
岐阜市域北部より北西方向を望む。写真上部中央に能郷白山があり、
根尾谷断層はその左肩の鞍部付近から下方の谷を通して写真右中央
の谷底平野部へ連なる。これを横切る河谷には1~2 km の左ずれ屈
曲が系統的にみられる。この上方（北側）から梅原断層が始まり、
根尾谷断層にほぼ並走して東南東方向へ延びる。

写真 2 梅原断層中央西部の地形
岐阜県山県郡高富町西部上空より西北西方向を望む。写真上部中央は伊自良
村大森であり、その下方の細長い尾根の基部が越切峠である。この東南の低
地でトレンチ調査が行なわれた。梅原断層はこれら地点を通して、写真中央
の山麓線をほぼ限り、写真下部中央やや左寄りの集落（戸羽）を貫いた。こ
の右（北）側の広い低地は濃尾地震後に1~3 m 低下したので、ここに湖沼
状態が出現した（高富小学校所蔵；野村倉一氏提供）。

写真 3 梅原断層の高田トレンチ

岐阜県高富町の高田トレンチを南南西方向に望む。西側と東側の法面が見えるが、上部に黒色の腐植質層が、下部に灰色の礫層があった。梯子付近で腐植質層が撓んでいるのが、オレンジ色の軽石質火山灰（AT）の連続性からよく判る。その下部には礫層と腐植質層が接する断層があり、この部分を梅原断層の主部が通っている。

写真 4 調査地付近における空中写真の立体視ペア

高富町と伊自良村の境界をなす越切峠付近の立体視空中写真（国土地理院、CCB-75-26, C 14・16 を縮小）

濃尾活断層系は岐阜県南西部を中心に、福井県南部や愛知県西北部にまで達する大規模な断層群よりなる。これは北西から南東方向へ約80 km にわたって連なり、中部日本を代表する左ずれ活断層系である。この主要部の活動によって、1891年の濃尾地震（マグニチュード≒8.0）が発生した。地震断層としては、温見・黒津・根尾谷・梅原などの断層が動き、いずれも左ずれが卓越していたが、梅原断層沿いでは上下方向の変位もかなり大きかった。そこで、梅原断層に沿う沖積低地（高富町高田北西）でトレンチ調査が行なわれた。トレンチ法面の上部では撓曲状のたわみとして現われていたが、下部では明瞭な断層がみられた。ここでの活動間隔はかなり長く、活動性は根尾谷断層と相当異なることが判明した。（写真1・3：岡田篤正撮影）

（Photo 1・3 by Atsumasa OKADA）